

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03772

研究課題名(和文) 会計史研究の展開に関する実証研究：リサーチ・データベースの作成と国際比較

研究課題名(英文) A study on the development of accounting history research: database building and international comparison

研究代表者

中野 常男 (Nakano, Tsuneo)

国土館大学・経営学部・教授

研究者番号：60093522

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：会計史研究においても国際化が進展している中で、本研究課題においてはわが国で蓄積されてきた過去の研究をデータベースとして一覧化してきた。日本と海外の刊行パターンの比較の結果、海外の学術誌においては、プロフェッションに高い関心が寄せられる一方、わが国では簿記・財務会計に対する関心の高さが見られ、研究対象についての相違が強く見られることが指摘された。

研究成果の概要(英文)：The primary purpose of this research is to create a database of accounting history researches in Japanese and English language to visualize them. To obtain a comprehensive view about the development of accounting history research in Japan and foreign countries, we collected articles from general accounting journal and special accounting history journals and constructed a database. By comparing the focus on the past by Japanese and foreign scholars, we finally got conclusion that area of interest by Japanese researchers are around bookkeeping and financial accounting, while those by foreign researchers are among accounting profession. This conclusion reinforced and justified our research results that we did once.

研究分野：会計学

キーワード：会計史 日本 刊行パターン

1. 研究開始当初の背景

会計史領域においては、英語を母語としない諸国での研究が増加しつつある。しかし、研究の蓄積は、直ちに豊かな議論を生むものではない。言語という障害は、普遍的に参照されうる研究の蓄積を阻んできた。すなわち、古語から現代語、現代語をさらに英語へという二重の翻訳のコストは、英語圏以外の研究者が英語で研究を公表することを躊躇させる結果となっていた。結果として、英語による出版件数は、英語圏以外のどの国においても自国語による出版件数よりも低くなる。このことは、わが国についても当てはまる。新たな研究を英語で公表することは可能であるが、過去の研究については不可能である。そのため言語の問題を克服する手段として、過去の研究をデータベース化し、そして、国際比較を可能とすることが必要である。

また、会計史それ自体に対する関心の高まりは研究者間だけに留まらず、その他の人々にも広まりつつある。ジェイコブ・ソール(村井章子訳)『帳簿の世界史』(文藝春秋、2015年)(原著: Soll, Jacob, *The Reckoning: Financial Accountability and the Rise and Fall of Nations*, New York, 2014)など、会計史の啓蒙書の出現とベストセラー化はその象徴的な出来事である。このことは単に会計史研究の観点だけではなく、グローバル・ヒストリーの観点からも、本研究の必要性に対する社会経済的背景を構成していると言える。

2. 研究の目的

会計史研究においても国際化が進展している中で、わが国の会計史研究(者)が取る道を探るべく、本研究課題においてはわが国で蓄積されてきた過去の研究の成果を一覧化することである。すなわち、過去の会計史研究をデータベース化し、それを基礎として会計史研究に関する国際比較研究、つまり、メタレビューを行うことである。そして、それを広く世界に提示することを目的としている。

本研究に関連する課題に携わっている者たちは、これまでに3回にわたり科学研究費補助金の交付を受けて、わが国における会計史研究の展開に関する分析とデータベースの作成・構築を継続して実施してきている。具体的には、会計史に関する著作に関して、わが国でもっとも長い歴史を有する会計専門学術誌である『會計』に掲載された研究論文等、および、わが国で唯一の会計史研究の学会である日本会計史学会の『会計史学会年報』に掲載された研究論文等の中から、会計史に関連するものを抽出し、それぞれの文献において考究されている内容を分析して、データベース化を進めてきた。これまでの研究では、わが国における会計史研究の現在までの趨勢的な特性ないし傾向について分析してきた。

本研究では、これに対して、これまでの一連の研究を継承しつつ、考察の対象を海外の会計史研究に転じ、海外の学術誌(ジャーナル)に掲載された会計史にかかわる研究論文等の考究内容について、わが国の研究論文等を対象とした従前の研究と同様のアプローチを用いて分析を進めることにより、その趨勢的な特性ないし傾向を明らかにするとともに、『會計』と並び、昭和戦前期から長い歴史を有する会計専門雑誌である『産業経理』についても同様にデータベースの作成・構築と分析、そして、国際比較を行うことを目的としている。

さらに、わが国における会計史研究の端緒ないし源流に位置すると考えられる海野力太郎、および、会計の専門的研究者として会計史の研究に最初に取り組んだ東夷五郎、これら両名の研究業績の分析についても併せて行い、わが国における会計史研究の特性を探ることも目的としている。

3. 研究の方法

わが国で行われてきた会計史研究を国際的文脈に位置づけて分析する研究と、具体的なデータベースの構築の二つに分けて研究を実施した。特に前者については、会計史研究の国際比較に関する研究を具体化させた。わが国の会計史研究の研究対象の領域、地域、時代について蓄積されてきたデータベースを、海外の会計史専門の学術誌である *Accounting Historians Journal*、および、*Accounting History* のそれぞれと比較し、検討を行った。また、後者のデータベースについては、『産業経理』のデータベースの構築を行った。このような新たな国内学術雑誌と海外学術雑誌の比較を重層的に行うことにより、研究成果の客観性の向上を試みた。

4. 研究成果

本研究の目的は、過去の会計史研究をデータベース化し、それを基礎として会計史研究に関する国際比較研究、つまり、メタレビューを行うことである。

研究計画の初年度に当たる平成27年度は、もっぱらそのリソースをデータベースの作成・構築に振り向けた。当初予定では、国内一般誌(『産業経理』)を対象として作業を行う予定であったが、国際比較の点から海外研究を優先させることとした。

具体的には、データベースに含まれる対象として、英語で公刊される会計史研究領域の主要専門誌3誌に含まれる、*Accounting History*、および、*Accounting History Review* (継続前誌 *Accounting Business & Financial History*) の2誌のデータベース作成を行った。これにより、従前の研究で実施した *The Accounting Historians Journal* 誌のものを含めて、英語の専門誌は3誌すべてのデータベース化を完了したこととなる。これに伴い、今後の分析のための基礎的研究として両誌

の特徴を分析した。

平成 28 年度は、わが国で行われてきた会計史研究を国際的文脈に位置づけて分析する研究、および、具体的なデータベースの構築の二つに分けて研究を実施した。前者については、会計史研究の国際比較に関する研究を具体化させた。わが国の会計史研究における研究対象の領域、地域、時代について蓄積されてきたデータベースを、海外の会計史専門の学術誌である *The Accounting Historians Journal*、および、*Accounting History* のそれぞれと比較し、検討を行った。

検討の結果、海外の学術誌においては、プロフェッションに高い関心が寄せられる一方、わが国では簿記・財務会計に対する関心の高さが見られ、研究対象についての相違が強く見られることが指摘された。また、わが国の会計史研究について、その源流に位置する会計人として海野力太郎に着目し検討を行った。さらに、わが国の会計史研究の進展について、刊行パターン (publishing patterns) の研究という研究の文脈から位置づける研究を実施した。

平成 29 年度は、平成 27 年度から 3 か年の計画で始まった本研究の最終年度に当たり、前年度に引き続き、会計史研究の源流に位置する会計人である海野力太郎と、会計の専門的研究者として最初に会計史の研究を展開した東夷五郎、両者の研究成果の分析を行い、学術論文として公刊した。また、これまで継続してきた日本の会計史研究の進展に関する刊行パターン (publishing patterns) の研究という研究の文脈から位置づける研究を、より客観性あるものとし、さらに本研究の成果として今後の研究に資するために、既にデータベース化と分析を行った『會計』とは別に、これと同様に昭和戦前期から継続して刊行されてきた『産業経理』のデータベースの構築作業を継続し、現在刊行に向けて最終作業を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

中野常男 (2015) 「曾田愛三郎 : わが国における会計史研究の先駆者 : 曾田と Beckmann の簿記史研究の交差」『国民経済雑誌』第 212 巻第 3 号, 1-20 頁。

中野常男・橋本武久・清水泰洋・澤登千恵・三光寺由実子 (2015) 「会計史研究の国際比較 : *The Accounting Historians Journal* と *Accounting History* との比較分析から (増補改訂版)」『神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー』, 2015-19, 1-20 頁。

中野常男・橋本武久・清水泰洋・澤登千恵・三光寺由実子 (2016) 「会計史研究

の国際比較 : *The Accounting Historians Journal* と *Accounting History* との比較分析から」『経営論叢』(国土館大学)第 6 巻第 1 号 27-53 頁。
Yasuhiro Shimizu and Chie Sawanobori (2016) A Development of Accounting History Research in Japan : A Study on Publishing Patterns, *Japanese Research in Business History*, Business History Society of Japan, pp. 13-32.

中野常男 (2017a) 「会計史に関する海野力太郎の第二の論稿 : 『實用簿記法』(1899)中の『簿記法の起源』をめぐって」『経営論叢』(国土館大学), 第 6 巻第 2 号, 35-62 頁。

中野常男 (2017b) 「わが国における会計史研究の先駆的業績 : 海野力太郎の『簿記學起原考』(1886)について」『営論叢』(国土館大学), 第 7 巻第 1 号, 27-96 頁。

中野常男 (2018) 「東夷五郎『簿記の起源及沿革』(『新案詳解複式簿記』(1903)) 会計の専門的研究者によるわが国会計史研究の嚆矢」『経営論叢』(国土館大学), 第 7 巻第 2 号, 103-160 頁。

中野常男・橋本武久・清水泰洋・澤登千恵・三光寺由実子 (2018) 「会計史研究の国際比較 : 『産業経理』の分析を中心として」『経営論叢』(国土館大学), 第 8 巻第 1 号 (掲載予定)。

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 常男 国土館大学・経営学部・教授
(NAKANO, Tsuneo)
研究者番号：60093522

(2) 研究分担者

澤登 千恵 大阪産業大学・経営学部・教授
(SAWANOBORI, Chie)
研究者番号：30352090

清水 泰洋 神戸大学・経営学研究科・教授
研究者番号：80324903
(SHIMIZU, Yasuhiro)

橋本 武久 京都産業大学・経営学部・教授
研究者番号：00290601
(HASHIMOTO, Takehisa)

三光寺 由実子 和歌山大学・経済学部・准教授
(SANKOJI, Yumiko)
研究者番号：60549301

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()